



現在は、日本陸上協議連盟長距離・ロード特別対策委員会スタッフで女子マラソン部長としても活躍の武富監督。「毎日少しずつ続けることが才能だと聞いた言葉が刺激的で、コツコツ続けたことが今の自分を作っていると思います。目標や夢を忘れず一つずつ積み重ねてください」と子どもたちにエールを贈りました。

目標や夢を忘れず、日々の積み重ねを大事に!!

武富豊監督が故郷の子どもたちに陸上指導

2000年から3大会連続で五輪女子マラソン日本代表選手を送り出している天満屋女子陸上競技部の武富豊監督による『陸上教室』が10月17日、陸上競技場で開かれました。

「プロの指導を受けたい」と願う小中学生や高校生約80人が参加。同部で五輪選手を目指す釘尾実来選手と井上麗選手も指導にあたりました。

まずは、トラックを一周歩き、体操をした後、天満屋で行っているウォーミングアップで汗を流し、体の軸がしっかり足に乗る姿勢づくりを監督がアドバイス。「毎日基本トレーニングを続けることで、走ることもフォームもよくなり、レースの緊張も緩和します。大会では、全力を出せるよう集中して!」などと、ケガをせず、本番に実力を出すために大事なことを説きました。

監督が走りをチェックしたり、釘尾選手が練習に対する気持ちや日常生活のあり方を話す時間も、参加者は「勉強になることばかりでした」と満足していました。

学校給食をおいしく会食! 授業にも感心!

西溪中生徒と民生委員が交流給食

地域に開かれた学校づくりを進める西溪中は10月5日、多久町と西多久町の民生委員21人を学校に招き、『交流給食』を行いました。

学力や人間関係の向上を目指し、昨年度から取り組んでいる『学び合い』の授業参観や会食を通し、生徒や学校をもっと身近に感じてもらうと開催。互いの交流を深めました。

英語、理科、体育を参観し、以前と違う指導方法や授業過程などを見学した西多久町民生委員会長の諸江勝良さんは「コミュニケーションで人と関わりながら課題を解決していく授業を初めて拝見し、人間関係づくりにいい教育ができていたと感じた。私たちもやらないといけないと勉強になった」と関心し、栄養豊かな給食を味わいながら会話も弾んでいました。生徒会長の熊崎大地さんは「授業や部活のことなどを話せ嬉しかった。結束力で頑張っている取り組みや学校のことをもっと地域の方々に伝えたい」と意欲的でした。



▲給食を味わいながら、会話を弾ませる生徒会本部役員(3年生)と民生委員

## ステキな フラワータワーで 都市緑化月間をPR

10/1 ~ 10/31

市役所玄関前アプローチのフラワータワーが来訪者を迎えています。10月の都市緑化月間推進運動として、造園建設業協会と市の担当者6人が作成。330株の白と黄色のピオラで彩られたタワーは高さ約2m、直径約60cm。内部には少ない土で生育できるような工夫も施されています。「多久から発信する緑の絆」をテーマにデザインした西九州建設(株)の福島直幸さんは「町中に緑や花があふれ、会話や世代を超えた絆が広がってほしい」と将来を描かれています。



## 障害者スポーツ 大会で歓声や 笑顔あふれる

9/26

多久市障害者スポーツ大会が体育センターで開かれ、約150人が競技を楽しみました。障害者の体力増強に役立て、交流も深めてもらうと多久市身体障害者福祉協会(陣内和博会長)などの団体が催し今年で47回目。参加者は、ピン倒し、田植え競争、輪投げ競争、宝さがしなど、個人戦やチーム対抗戦に挑み、会場は歓声や笑顔であふれていました。

